

## ESOMAT でのたたらへの講演

「たたらプロジェクト」での研究成果の発表のため、チェコのプラハで行われた ESOMAT 2009 (European Symposium on Maternsitic Transformation 2009)に参加した。著名な刀匠さんにたたらで作られた玉鋼（たまはがね）を用いて伝統的な手法で小刀を作ってもらい、日本刀に現れるのは緻密で硬い組織となる「ラスマルテンサイト」といわれるものであることを「たたらプロジェクト」で導入した高分解能走査電子顕微鏡で明らかにした。日本の刀鍛冶は長年の経験でこの組織を作り出し、まさに現代で言うところのナノテクノロジーであるというもので、多くの出席者から興味をもたれた。たたらプロジェクトでは和鋼博物館とも協力関係にあり、和鋼博物館の館長も古刀に関して発表を行い、日本刀は現代で言うところの傾斜機能材料であるとの発表を行い、こちらも好評であった。また、会議では「たたら」のビデオでの紹介も行われ、多くの参加者の興味を引いた。写真はビデオ紹介のときの写真である。



大庭先生と和鋼博物館館長八十さんと会議司会者



たたら導入



和鋼博物館館長によるビデオ説明